丸山湿原群保全の会会報

（第 138 号）

発行日：2019 年（H31）1 月 22 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

新年を迎え、気がつけば月末近く。何とぼーっと生きているのかと反省しております。またまたNHK の誰かさんに怒られそうです。

さて、今年の冬は暖冬。昨年の大寒波とは余りの違いに驚かされます。ちょうど昨年のこの時期、池の氷の上に乗り調子に乗っていたことが思い出されます。気温も最低－８℃ぐらいだったでしょうか。今年は－4℃程度。これからが厳寒期とはいえ、昨年ほどの冷え込みはないものと想像しています。しかし、やはり寒いと感じるのは一体なんなんだ！と思う今日この頃です。インフルエンザも流行っているようです。お気を付けください。

この気温の変化は自然界にどんな影響を与えるのでしょうか？おそらく「極端」とまではいっていないと思うのですが、**種子や株によっては低温時期を一定期間過ごさなければ発芽や花をつけないものも多くあります。「沈黙の春」が現実にならないことを願っています。**

（今住　１月 17 日作成）

定期活動　**★12 月 23 日（日）第４湿原観察台周囲、原状回復作業・ササ刈り　10 名の参加**

毎年恒例の年末作業。ほぼクリスマス活動となっています。クリスマスではしゃぐ世代もいないので土いじりの作業をこの時期に。しかし、と言ってはなんですが、我が家では今だに毎年クリスマスツリーを作っています。家族以外誰も見ることはありませんが、年中行事としてなぜか作らなければいけない感覚です。FB には UP していますのでもしよければ覗いてください。皆さんのイメージとは少し違うツリーです。

作業前の第 4 湿原観察台周辺

第 4 湿原観察台周囲の草刈り

おっと！本題。**第４湿原観察台の周囲です。視点場ができたのはいいのですが、湿原保護のため水辺から少し離れたところに設置されています。そのためハッチョウトンボやサギソウの観察となると、つい１歩！１歩が２歩、２歩が３歩となり４歩、５歩６歩…キリがない。つまり周りが踏み固められていきます。水辺からは少し離れたところですが、観察台から同じところばかり踏み込むため固くなり、陸生の植物が侵入しやすい状態に。そこをもう一度柔らかくし、できることなら水を呼び込む作戦。**うまくいけば（中々うまくいかないのですが…）観察台周囲が湿原に…と夢見ています。時間も短く、たいした作業はできていませんが、**後日確認に行くと小さな（大きな？）水溜まりができていました。**ひょっとするとひょっとするかもしれません。ちょっとした落とし穴みたいにもなっています。進入者へはトラップです。

第 4 湿原観察台先端への導水作業

進入禁止の簡易柵も設置。これはもう少し考える必要ありです。水溜まりの部分は基盤の土まで出ていますが、種子等は周囲から水の流れとともに運ばれるはず。そして、**アカガエル類にも好都合の深さ。まもなく産卵が始まります。期待が膨らみます。**

第３湿原での作業は期待だけで成果は出ていませんが…。希望を持って前へ前へ！

第４湿原の作業をする前に、第１湿原と第３湿原の間のササがまだ残っていましたのでその部分もきれいに片づけました。

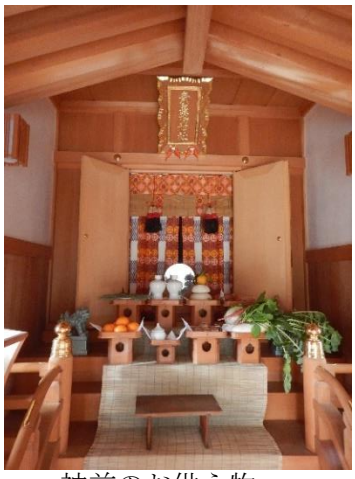
後日確認した水溜まり（第 4 湿原）

あとはいよいよ湿原内のヌマガヤ等の刈り取り作業となります。アカガエル類、カスミサンショウウオの産卵時期と重ならないように（といっても重なりますが）、できるだけ早く処理したいものです。**今年はいつ頃から産卵が始まるのでしょか？２月初めか？異常に雨（雪）が少ないからな～。しかし、私たちは知っています。丸山湿原水量が降雨により増加するのは一時的なこと。冬季の湿原水量は夏の降水量に支配されます。水量はおそらく現在のまま推移すると思われます。**でも、昨年の夏は雨量はどうだったんでしょうか？もう忘れました。あかんがな～。確か９月は降った。稲刈り苦労したからね。

午後は、自然休養村センターに場所を移し納会（茶話会）。**来年度に向けての活動計画も話し合い、研修旅行の候補地も絞られました。来年度は７月末ごろ、四国満濃池周辺となりそうです。午後だけの参加者もおられ、ご意見を頂きました。普段参加できない方も、ぜひ茶話会などの機会にご意見をお願いします。（一般の方も参加してください！お待ちしています）**

年末年始　★丸山湿原とは全く関係ありません。（ただのコラムとお考え下さい）

私事ですが、今年は（昨年 12 月より）宮当番と松・火ともし当番が当たっています。村の素盞嗚神社の当番（御祷・２軒で担当）。約２５年に１度。年５回の神事（新嘗祭～秋祭り）のお世話をします。松・火ともし当番は、宮・寺の門松、とんど、提灯の準備を行います。こちらは約１６年に１度（３軒で担当）。今回はたまたま両方が重なって、てんやわんやの年末年始でした。まだまだ続きますが…。以前やったことがあるようなないような、忘れてしまう時間の長さです。手探りでやりましたがやってみるとこれが結構面白い（もちろん大変で、苦労しますが）。宮の掃除から始まり、本殿の開扉。米を中心に海のもの山のものを三方（三宝）に祭り、作法にのっとってお供えします。年明けの参拝者のための福火（焚火・最近この呼び名を知りました）の準備、などなど。門松は黒松（雄松）と赤松（雌松）を左右に立て、榊、竹、梅、注連縄、御幣（紙垂）などをセットに。形のいい黒松を探すのはなかなか骨が折れます。榊も芯持ちの形のいいものは少ない。この門松は、松が明ける 14 日夜のとんどで焚き上げます（玉瀬地区）。この準備もなかなか。翌朝（小正


神前のお供え物

神殿前の榊

月）に餅が焼けるように、芯に太め（径 60 ㎝ぐらい？）の木を入れ、また周りには、とんどの名前の由来になったという爆竹（青竹ですよ！火薬なし、鎌倉時代から記録あり）をたくさん仕込みます。竹のはぜる大きな音は魔よけにつながるそうな。音を振るわせることは古来よりの魔よけ効果があると信じられているようです。とんどに火をつける位置も恵方からと決まっています。今年は東北東。恵方といえば、間も無く恵方巻ですね。？？？沈黙して食べる。音の論理が通じない。やっぱり大阪の海苔商人が考え出した風習ですね。

寺　客殿前の門松

「大変だ、大変だ」と考えていた当番ですが、日本の文化と自然のかかわり。古来からの風習を知ることで新たな気づきがあった行事・お正月でした。続けることは大変ですが、できれば残したいものです。

門松を焚き上げるとんど

さらに蛇足になりますが、御祷で最初に取り組んだ新嘗祭は昨年 12 月 11 日。最も重要な神事。宮中では 11 月 23 日に行われます。その年の収穫を神に感謝する日だそうです。「勤労感謝の日」の根拠となったとか。さらに、天皇が即位した最初の年の新嘗祭を大嘗祭というそうです。今年の新嘗祭は大嘗祭ということになりますね。

宗教的な意味合いはありません。日本文化という視点で見てくださいね。いろいろ面白いことといっぱいです。

定期活動

★1 月 12 日（土）　定期基礎調査・巡回、観察、外来種除去　臨時作業　７名の参加

今回は観察日ですが、湿原内（第３湿原）ヌマガヤ刈り取りを実施しました。

目的	市内	市外
丸山	19	3
ハイキング	16	6
その他	0	1

来場者数　計 45 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：00	6.8℃		
視点場	10：35	12.3℃		6.1
第３湿原	10：25	【6.3℃】？	35.0μS/cm	6.3
第１湿原	10：45	【3.7℃】	34.8μS/cm	6.5
第２湿原	11：09	【4.2℃】	38.4μS/cm	6.5

冒頭でも書いたように今年は暖かい。昨年のこの時期の会報を見てみると氷の世界です。電気伝導度時計や PH 計が氷の上に置かれています。氷に穴をあけ測定。今年は、たまたま？かもしれませんが少し動くと汗ばむような陽気です。雲でかげると途端に寒くはなりますが。雨が少ないのも影響しているのか、水量は少なく、EC も昨年と比べると少し高めになっています。今回もツチアケビ（土木通）のその後を紹介しておきましょう。もうカラカラ！でも立っているんです。やはりほぼ「枯れ木」状態。葉緑素も持たない植物がここまで強靭な肉体？を作るとは驚きです。今年はどこで見られるのか？はたまた、今年は見られないのか？丸山湿原のシンボルマークにもなっているので、ぜひ出てほしいものです（湿性植物ではないが…）。これだけは神のみぞ知る領域ですね。「かしこみかしこみ～ も まをす～」いかん罰があたる。しかし、八百万の神々

竹筒ポスト　カウント後の相談

今回のツチアケビ

にお願いするしかありません。

活動です。冬季の間に湿原内のヌマガヤを刈り取らなくてはなりません。今回は本来観察活動日ですが、間に合わないので臨時の作業となりました。３月末まではすべて作業になると思われます。データ取りも同時進行。湿原内のヌマガヤは柔らかく、刈り取りは刈り払い機で効率よく実施できます。刈り取り幅に合わせ、両側から真ん中に集めていきます。ちょうどモヒカン刈りのように草を集めます。こうすると、草をロールするように集められ、運び出しが楽になります。広い場所でのみで出来る作業ですが、ちょっとした工夫で作業能率アップです。ただ、１月とは言えアカガエル類やカスミサンショウウオ（霞山椒魚）が産卵に出てきてもおかしくない時期。場合によっては成体を傷つける事もあります。過去において、傷つき死んでいる個体も見つかっています。勢いだけでなく慎重に作業を進めていきましょう。

モヒカン状に集めたヌマガヤ

今年も３月２日（土）に田口勇輝さんをお招きし、セミナーと両生類卵塊数調査を実施する予定です。その時、草ボーボーの湿原か刈り取られた湿原になっているかヒヤヒヤものです。両生類にとってどちらの環境のほうがいいのかは？？？です。当然、視界が開けると天敵には狙われやすい！どうすりゃ一番いいのでしょう？いろんな環境を残す？昨年も問題なかったのでよしとしましょう。さて、今年はどんな結果になるのやら…。結果からまた方向性が見えてくるでしょう。

宝塚市からの消耗品支給

宝塚市から、お願いしていた消耗品の支給がありました。今年度は草刈り機用チップソー（山林・草オールラウンド用）、革手袋、レーキ、鶴嘴、草集め用袋、てみ。消耗品ではありますが、大事に使っていきましょう。しっかり活用！お蔵入りとならないように！

北摂里山愛す会との協働

直近の活動（27 日）になりますが、恒例となってきました「北摂里山大学」有志 OB で結成されている「北摂里山を愛す会」との協働作業があります。今回から、呼びかけのみにしていただき、自由参加。さて、何人の方にご協力いただけるのか楽しみです。前号でも紹介しましたが、今回は第４湿原周囲の再萌芽刈り取り作業を計画しています。一般の方も歓迎しますので是非ご参加ください。道具類は用意いたします。10:00 に駐車場集合です。午後も活動しますので、弁当・水筒（水分）持参でお願いします。

丸山湿原セミナー・両生類卵塊数調査

丸山湿原（両生類）セミナーと両生類卵塊数調査を３月２日（土）に実施します。セミナーは今年も「兵庫県立宝塚西谷の森公園」多目的室。10 時 30 分～。今年もオオサンショウウオの権威、田口勇輝さんにお話を伺います。広島県安佐動物公園でのオオサンショウウオ繁殖の話や、産卵に適した河川（水路）の話などが聞けるかもしれません。（詳細は未定）午後は丸山湿原で卵塊数調査。毎年楽しく調査しています。湿原内に踏み込める数少ない機会、ぜひお越しください。

制作途中のチラシ　まだ未確定

次回活動

１月 27 日（日）協働作業　２月９日（土）定期調査と作業　２月 20 日（水）環境学習
２月 24 日（日）作業　３月２日（土）セミナー・卵塊数調査　３月９日（土）定期調査と作業